

二島中学校だより

No.13

北九州市立二島中学校
校長 森 隆

余寒厳しい折、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。3年生は、自分の将来に関わる大切な高校入試に向けて真剣に頑張っており、今日は多くの私立高校の合格発表がありました。1・2年生も来週からの学年末考査に向けて、努力を続けています。高校入試や学年末考査の為に、今努力していることは確実に自分の力となります。努力した力は、学力だけでなく忍耐力、集中力、行動力など今後の人生の生きる力として蓄えられていくのです。苦勞しているときこそ、自分の成長を信じ頑張りましょう。

女子バスケット部、新人県大会 優勝！

1月21日に福岡市立早良体育館で、22日に福岡市九電記念体育館で女子バスケット部が福岡県中学校新人バスケットボール大会に出場しました。1回戦から危なげない試合で決勝戦まで駒を進めました。準決勝は3位となった北九州市立菊陵中学校と対戦しましたが、85対36のスコアで大勝しました。いつも通り大差が開いても全力を尽くす姿は変わらず、常に今を大切に、自分たちが成長するために頑張っていたように思います。日頃から集中した練習の姿が表れていました。決勝戦は市内大会と同じ折尾中学校で、両チームともに必死に戦う姿は本当に輝いていました。ベンチは勿論、応援席にいる部員や保護者の方々も気持ちを一つにして戦いました。終わってみれば58対44のスコアで勝利し、チーム全体が盛り上がりました。

感動をありがとうございました。

決勝：シュートに対する二島中（白）のリバウンドの位置取り（ボールのない所での戦い）



準決勝：菊陵中（黒）のシュートに対して最後まで諦めずに手を伸ばした素晴らしいプレー



決勝：転んでも必死にボールを離さない中村さん（白）の気迫溢れるプレー→



全国中学生人権作文コンテストで、福岡県弁護士会賞受賞！

1年3組の山内さんが、第36回全国中学生人権作文コンテスト福岡県大会の特別賞とし、福岡県弁護士会賞を受賞しました。学校通信 No.11 でも山内さんの読書感想文を掲載したのです

が、今回の作品もまた、あまりにも素晴らしい文章でしたので、紹介します。

「受けとめるということ」 1年3組 山内 琉緒

「落とされましたよ。」と言って小銭を手渡した男性の姿が今でも思いだされます。

ある日、私が市営バスに乗った時のことでした。優先席に座っている男の人は、何かを考えるようにつぶやきながらキョロキョロ顔を動かしたり、自分の舌を手で触り続けたりしていたのです。しばらくして、急に何かが起こったかのように自分のかばんから財布を出したかと思うと、斜め前の男性に小銭を投げつけたのです。投げつけられた男性は、大学生くらいの年齢だと思います。とても驚いた表情をしましたが、気がついていないような振りをして窓の外を見つめました。私は、男性はどうするのかなと思いながらドキドキしていた時、赤信号でバスが停まりました。すると、男性は小銭を拾い「落とされましたよ。」と言って手渡したのです。男の人は「すみません。すみません。許して下さい。」と言って謝り、お金を受け取りました。私はこの出来事について考えました。

あの男の人はどんな障害なのだろうか。なぜ自分のお金を投げたのだろうか。拾ってもらい謝るといことはいけないことをしたと分かっているからだろうか。家族の人と、一緒に行動しなくてよいのだろうか。丁度、姉が障害者施設に実習に行っているの聞いてみると。同じ障害でも百人いたらみんな同じではなく、一人ひとりに合ったかかわり方があると教えてもらいました。男の人がどうしてあんなことをしたのかは分からないけれど、何かを表現したかったのかもしれないと思いました。そして障害者にかかわる人は、一人ひとりに合ったかかわりができ、素晴らしいなあと思いました。

もし、私がああ男性だったらどうしていただろう。やはり驚いて、窓の外を見て気がつかない振りをしながら、どう対応したらよいのかを考えたのだろうか。あるいは、怖くなって席を離れてしまったかもしれない。あの男性のように小銭を拾うことはなく、彼にかかわろうとしなかったのではないだろうか。バスに乗っている時、ドキドキして見ていた私は何なのだろうか。男性がどう対応するかより私に投げつけられなくてよかったと思う気持ちが大きかった。そして、大変なことになりませんように。と願ったような気がします。こうして振り返り、冷静になって考えると、自分の思ったことが恥ずかしいです。怖くなった自分が情けなくてたまりません。だから、「落とされましたよ。」と言って拾って渡したあの男性が、とても格好よく、輝いて見えます。男性は、小銭を投げつけられたことに対して怒ることもなく、注意をすることもなく、共感することもなく投げつけたことを受けとめてあげたのだと思いました。小銭を投げる行動が我がままな行動だとしたら、我がままを受けとめてもらった男の人はその優しさに驚いて謝ったのかもしれないとも考えました。自分と考えの違う人を受けとめることは難しいと思うけれど、どうしてあの男性はできるのでしょうか。

私はこの出来事を家族や友達に話しながら何日も考えました。自分の考えがあり、Aさんの考えがあり、Bさん、Cさん…と考えていくと、考えの似ている人はいても、全てが一緒の人なんていないと思います。私がいつも正解ではなく、私もどこかで誰かに受けとめてもらっているのです。クラスで、部活で楽しく過ごしているのは、皆が一人ひとりを受けとめているからです。私は幸せだと思い毎日の学校生活に感謝します。金子みずずさんの「みんなちがってみんないい」や四字熟語の「十人十色」などは、この事を言っているのだと改めて考えることができました。あの男性は、これまで受けとめてもらえることが沢山あったから、自分も人に優しく接することができたのだらうと思いました。

私はこのバスでの経験から、相手を理解することが『受けとめるということ』だと考えることができました。私もあの男性のように受けとめる優しさと、行動する勇気の持てる人になりたいです。